

## 尊厳を保障し、財政を改革する

—私たちのくらしだから、私たちみんなで変える

慶応義塾大学経済学部教授 井手英策

\*ここ20年で世帯収入は2割減った  
\*貯金出来ないと生きてゆけない社会

\*「中の下」の反乱とは何か

\*貧しい人におカネを配ると格差は拡大する

\*日本にはみんなの利益という視点が無い

\*弱者がさらに弱者をたたく理由

\*既得権ゼロの社会を考える

\*生活保護はなくしたほうがいい

\*おカネの代わりにサービスを提供する

\*喜びと痛みを分かち合う財政に変える



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ここでは経済、政治、外交、その他、いろいろな方に来ていただいています。皆さん財政問題にはたいへんご興味があると。しかし、なかなかそのものについてしゃべっていただく方を選ぶのがたいへん難しかったわけですが、今日は財政が専門の慶應大学の井手先生に来ていただきました。東洋経済からたいへんわかりやすい書籍を出していただいております。たいへん好評でございます。最近はおんらいんでも載っておりますので、ぜひまたそちらのほうもご覧いただきたいと思えます。

それでは井手先生、よろしく願いましたます。（拍手）

井手 どうもありがとうございます。慶應大

学の井手でございます。

今日はだいたいぶ人生の先輩方が多いということがあって、ただでさえ緊張する状況なのかというところもあるんですが、同時に、私は若いときに高橋財政という戦前の財政の研究をやっております、その中でずっと金解禁論争——新平価か、旧平価かという大論争があったわけですから、そのときから石橋湛山の著書を読んできた人間として非常に光榮な場に呼んでいただけたなと思っております、ますます緊張しております。

それから、まったく知らずに来るのも失礼だなと思つて、ネットで経済倶楽部のことを調べてみたんですけども、そうしますと1931年の創設と。それは実は私の母の生まれた年で、